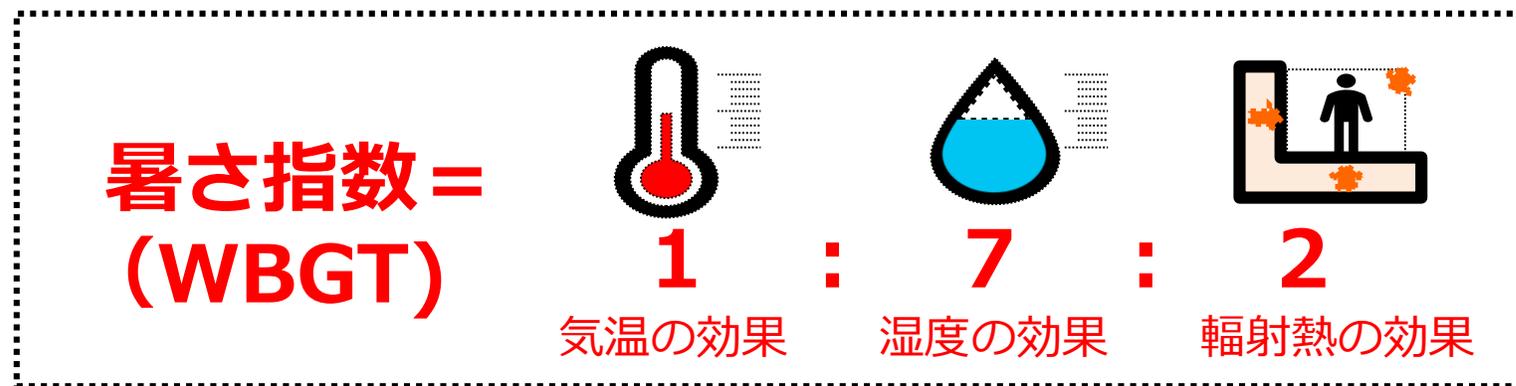


市内3カ所における暑さ指数の測定結果

■ 暑さ指数 (WBGT) とは？

- 人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目し、熱中症を予防することを目的とし、提案された指標
- 人体の熱収支に与える影響の大きい「**気温**」、「**湿度**」、「**輻射熱 (ふくしゃねつ)**」から構成



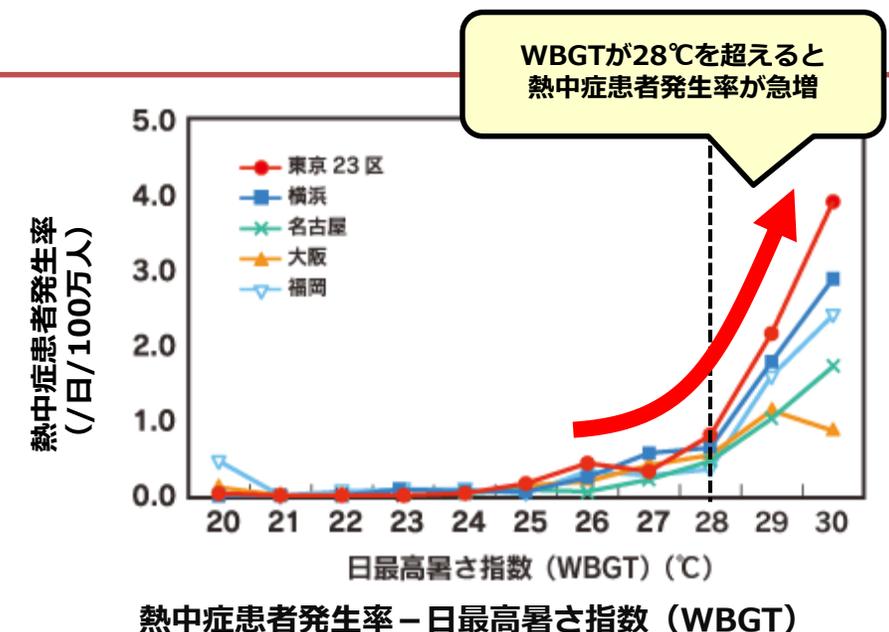
- **温度よりも湿度や輻射熱の方が大きく影響**。湿度が高い場所では汗が蒸発しにくいいため、身体から空気へ熱を放出する能力が減少してしまい、熱中症になりやすくなる。

出典：熱中症予防サイト（環境省）

■ 暑さ指数と熱中症との関係について

- **暑さ指数 (WBGT) が28を超えると患者発生率が急に増加する**ことが分かっています。
- 京都府の令和2年6～8月の熱中症救急搬送者数と暑さ指数の関係性を見てみると、暑さ指数が高い時に救急搬送者数が多いことが分かります。

出典：熱中症予防サイト（環境省）



市内3カ所における暑さ指数の測定結果

■ 測定場所

【実施】

日時：令和3年7月27日（火）

15時～17時頃

天気：くもり



①北大路周辺



②五条周辺



④京都駅



③七条大橋

■ 測定結果 (データ+得られた気づき)

地図	実際の測定場所		測定値				測定時の時刻	測定結果をふまえた気づき
			暑さ指数(WBGT)		気温	湿度		
			高さ150cm	高さ50cm				
①	北大路橋 (賀茂川沿い)	橋の上	27.8	27.9	31.4	56.7	15:23	・ほぼ同時刻の測定だったが、上流(北大路周辺)と下流(五条周辺)で比べると、上流の方がWBGTが下がっていることがわかった。
		橋の下(水辺)	27.8	27.7	31.5	55.9	15:45	
		打ち水の前	28.4		32.1	56.2	10:58	
		打ち水の約25分後	27.9		32.1	53.8	16:22	
②	五条通り	アスファルト	29.6 ↔ 30		33.9	54.6	15:18	・アスファルトの地面に近い方がより高い指数になっていることから、子どもや車椅子の方などは、特に熱中症対策が必要と感じた。 ・特に、子供は自分から暑さを訴えるのが難しい場合があるため、注意が必要だと思う。
		交通量が多い交差点	29.4 ↔ 29.9		34.3	50.8	15:57	
	五条大橋 (鴨川沿い)	橋の上	29.9	29.5	34.7	51.5	15:00	・日なた(橋の上)と日かげ(橋の下)とで比べると、やはり日かげの方が涼しかったので、街中での熱中症対策として、なるべく日かげを歩くようにすることが大切だと感じた。
		橋の下(水辺)	28.7	28.4	33.4	51.2	15:37	
		打ち水の前	29.7	29.7	34.4	51.5	15:24	
		打ち水直後	30.4	30.2	35.3		15:24	
		打ち水の約20分後	29.7	29.6	34.5	51.4	15:47	・15時頃の打ち水ではあまり変化がみられなかったのに対し、17時以降の打ち水では時間の経過に伴い、WBGTも下がっていった。 ・打ち水直後は、体感として多少の涼しさはあったものの、打ち水をする時間帯によっては効果が得られにくい場合があることがわかった。
③	七条大橋 (鴨川沿い)	打ち水の前	28.1		32.1	54.4	17:13	・WBGTが28を超えていることから、屋外のホームで電車を待っている間にも、熱中症にリスクを伴っていることがわかった。
		打ち水直後	27.9		32.1	53.9	17:14	
		打ち水の約20分後	27.5		31.4	54.6	17:32	
		打ち水の約40分後	25.7		29	56.7	17:53	
④	京都駅ホーム	地下鉄(屋内)	25.5	25.3	28.6	58.8	13:36	・WBGTが28を超えていることから、屋外のホームで電車を待っている間にも、熱中症にリスクを伴っていることがわかった。
		JR(屋外)	28.1		32.2	53.8	15:38	
	京都駅 (烏間口バス乗り場)	ミスト装置あり	27.6	27.6	30.8	58.2	14:58	・ミストを設置しているところは、WBGTが28を下回ったことから、熱中症対策として効果があると感じた。
		ミスト装置なし	28.4	28.4	32.5	55.0	15:05	